

第9回 野洲市民病院整備運営評価委員会 要録

1. 開催概要

- (1) 日 時：令和3年1月14日（木）午後1時30分～2時40分
- (2) 場 所：コミュニティセンターやす2階研修室
- (3) 出席委員：上本委員長他 計12名 欠席委員計2名
- (4) 出席職員：栢木市長、川口副市長、市立野洲病院福山病院長 他

2. 議題

(1) 野洲市民病院整備事業の現在までの経過と課題について（資料2 議題1）

○これまで進めてきた病院整備の経過及び整備方針転換とその課題等を説明。

(2) 評価委員会の役割について（資料2 議題2）

○委員会の役割、検討の流れ、今後の予定、検証の対象となる案を説明。

(3) 専門部会の設置と役割、部会員の選任について（資料2 議題3、資料4）

○建築専門部会及び医療専門部会の設置、検証スケジュール、現地建替えの前提条件等を説明。

⇒専門部会の設置及び構成員に対して異議なし。

(4) 市立野洲病院の現状について（資料2 議題4、資料3）

○市立野洲病院の現状を写真により説明。

○野洲病院支援継続可能性に関する提言書（平成28年3月14日）の説明

【委員からの主な意見等（要旨）】

○対案内容について

- ・平成28年の提言書では敷地が狭いとあるが、対案の階数、床数を伺う。また、病院の機能分化が行われている状況であるが、どういう機能を想定されているのか。
→（事務局）対案の内容は、これまでの計画と同規模の179床、7階建てを想定している。病院機能は、今までの委員会で議論してきた積み上げであり、構想・コンセプトは変わっていない。
- ・病院を建替えしている時に、コロナウイルス感染症対策や災害が起こった場合に、救急を含めどう対応出来るかを考えておく必要がある。
→（県）県は、感染症対策を踏まえた医療体制を見直す。建替え時に災害が起きた場合は、バックアップ体制を整えるので心配ない。
- ・現地建替えが出来る・出来ないではなく、「どうすれば現敷地で建替えが出来るのか。」というスタンスで議論を進めて、どうしても越えられないハードルがあるなら、「現地建替えは難しい」と判断すべきでは。
- ・県は、野洲病院を「しっかり維持する。」「市民を守る。」ため、元々残すスタンスであった。平成28年の提言書で敷地の拡大は不可能とあるが、どういうプロセスで敷地の拡大が不可能となったのか。今回建替えが仮に不可能の結果となると、経過を積み上げておかないといけない。

○病院整備について

・市長はどのような病院を建てたいのかという思いを改めて聞きたい。

→（市長）地域医療を守るため、持続していく病院をつくる必要がある。対案としては、これまでの計画のサイズに合わせて提案した。

野洲市の財政規模、人口5万人規模のまちに合った病院を作る。それを超えたら病院が持たない。破綻したら市民や地域医療に活躍している医師会に大変迷惑をかける。そういうことがないように、半額程度で病院整備すること。とにかく贅沢な病院ではなく、持続・継続していける病院にしたい。現地建替えしかダメだ、というのは正直思っていない。財政が豊かなら本当は駅前でも良い。野洲市が財政的に余裕のあるまちならよいが、厳しい行財政運営をしている中で、突出して高い病院を建てて、持続していかなければならない病院の整備は、将来負担を子や孫に持っていくことになるので一番懸念している。理想は、市民の皆さんに喜んでもらえる病院である。

- ・市立野洲病院は必要である。病院規模を縮小しても構わないので、早くつくってもらいたい。
→（市長）以前の評価委員会で「これだけ高額な病院を整備したら、野洲市が夕張市ようになります。」と発言された言葉が頭に残っている。市が財政破綻したら、市立病院も何もなくなってしまうということ。「これだけは絶対に避けなければならない」と今でも思っている。

○病院の現状について

- ・施設が老朽化しており、アメニティが充実していないので、一度入院された患者は、他の病院を紹介してほしいと言われるケースが多い状況である。
- ・市立野洲病院と連携している大きな病院は、県立総合病院・済生会滋賀県病院・滋賀医科大学・近江八幡医療センターの4つある。これらの病院で治療・手術等をした野洲市民の8割以上がその後市立野洲病院に来ており、常に連携をしておかないと、病院経営が維持できない。もし、建替えによる改築等で2年も休床している状況が続けば、他病院が、野洲市民に対する後方支援を担うことになる。後方支援のルートが変われば市立野洲病院は担えなくなり、病院経営の悪化が危惧される。
- ・市立野洲病院がこのままの状態であれば、スタッフの派遣が滞ってしまうのではと危惧している。
- ・もし、2年も休床すると患者は来なくなると思う。前向きな議論で早期の建替えが実現するようお願いする。

○その他

- ・市立病院であるため、患者や家族への広報や病気に対する正しい医療の知識についての情報発信をしてほしい。
- ・病気は待ってくれない。患者に対しては、医師・看護師等チームで向き合う体制づくりが必要である。